

令和3年度

里浦小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

豊かな心を持ち、ともによりよい生き方を求める行動する子どもの育成
 ①楽しさと充実感を味わい、「確かな学力」を身に付ける授業の実践
 ②自ら学び、主体的に考え、行動する力を養う指導内容や指導方法の工夫・改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 前田 美里	委員 校長 早川和美 教頭 遠藤比呂誌 教務主任 前田美里 研修主任 田中優子 低学年 三栖アリ紗 中学年 藤田拓弥 高学年 中野克哉
------------------	---

校長

早川 和美

印

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識技能が身に付いていたり、与えられた課題にも真面目に取り組めたりできる児童が多い。 ●文章を正しく読み取ることや身に付いている知識等を関連付けることが課題である。	・基礎的・基本的な知識技能を確実に身に付け、他の学習や生活場面で活用することができる。 ●目標を持って学習や読書に取り組み、自分の課題を進んで解決しようとすることができる。	・里浦スタンダードを定着させ、落ち着いた環境の中で学習に集中できるようにする。 ・基礎的・基本的な知識技能の定着を図るために、朝の学習の時間や単元の前・中・後に学習プリント等を効果的に活用する。 ・TTを効果的に活用する。	・目標を持たせ、里浦スタンダードの充実を図る。 ・「のびのびタイム」「朝学」の時間を発展学習の場として計画的に運用する。 ・タブレットを隙間時間などで活用し、反復練習をすることができた。	・里浦スタンダードを実践することで落ち着いて学習に取り組むことができた。 ・発展学習を計画的に行なうことが難しかった。 ・タブレットを隙間時間などで活用し、反復練習をすることができた。	・里浦スタンダードを引き続き実践し、学習規律を徹底する。 ・発展学習として子ども新聞などを活用し、長文を読む習慣をつける。 ・タブレットを活用した学習を工夫する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見を発表したり、話し手の意見をしっかりと聞いたりすることができます。 ●複数の資料の中から必要な情報を取り入れたり、根拠を基に自分の考えをまとめたりすることが課題である。	・常に相手を意識し、話し合いながら、課題を解決しようとができる。 ・自分の意見を正確に伝えるために、根拠や理由を明らかにしながら、話したり書いたりして表現することができる。	・ペア学習やグループ学習を効果的に設定し、ホワイトボードやICTを活用して発表や話し合いの機会を設ける。 ・作文読本の活用や作文指導を適宜行い、自分の考えをまとめたり、思いを伝えたりするなどの機会を設ける。	・課題解決に向けての意見交換や話し合い活動をタブレット端末を活用して行う。 ・複数の資料を比べ特徴や効果を考えたり、作文読本を活用したりする授業の充実を図る。	・タブレットを活用することで、全員の意見が反映され、様々な考えを肯定的に受け止められるようになったが、考えを深め合う学習がまだできない。 ・作文読本へ積極的に投稿することで、意欲的に作文に取り組めた。	・根拠となる情報を集め、考えを導く学習を授業の中に取り入れる。また、タブレットを活用してわかりやすく相手に伝える活動を取り入れる。 ・話し合い活動でのタブレットの効果的な活用方法を研究する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組み、最後までやり遂げる児童が多い。 ●難しいことや不得意なことに対して、自分で計画を立てて、克服しようすることに課題がある。	・自分の学習の課題を明確に持ち、課題を解決できるよう計画を立て、取り組むことができる。 ・互いを認め合い、励まし合って共に成長することができる。	・ゴールを明確にし、常に学習のめあてを意識した授業を展開し、振り返りの視点を示すことによって、自らの学びを把握できるようとする。 ・学年通信や教室掲示等で、児童の学習の姿を伝え、家庭も含めて児童の頑張りを認め合える環境をつくる。	・学習内容を児童の生活に結びつけるなど、課題意識を明確にもち、学習で得た知識を活用する場を教育活動の中に設定するようとする。 ・HPを活用することで、児童の様子を保護者に伝える。	・授業のめあては、明確に示し取り組まることはできたが、個人の目標までたせることはできなかった。 ・生活の中で学習したことを生かす場面が、あまりなかった。 ・HPを活用することで、児童の頑張りを伝えることができた。	・自分のめあてや目標をスマーツアップでもたせ、結果が出たときや定期的に振り返る機会をつくり、ステップアップできるようにする。 ・引き続き、児童の様子を家庭に届けることで、児童の頑張りを支え、励ます環境を整える。

令和3年度 学力向上ロードマップ

